

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：多種魚類に適した魚道整備		
水系/河川名：木曾川水系 川浦川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：38.4	整備計画流量：400m ³ /s	セグメント：1
事業：環境整備	事業開始年度 平成30年度	
目標設定：なし	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

川浦川は瀬や淵が適度に形成されており、アユやカワムツなど多種魚類が生息しているほか、初夏にはゲンジボタルが多数飛翔しており、自然豊かな清流である。また、川浦川は富加町の中央を東から西に流れていることから、地域住民とのかかわりが深い河川である。

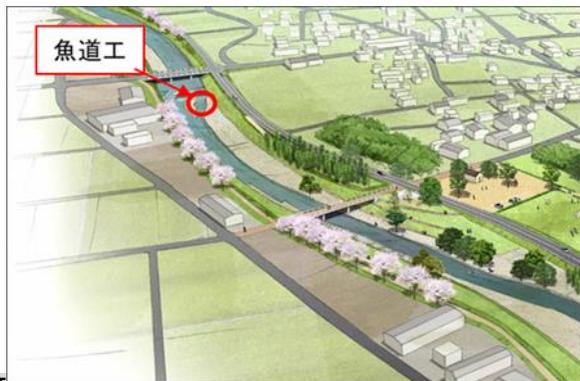
<課題>

当該計画地には落差工が設置されており、魚類の縦断方向の移動が阻害されている状況である。そのため、水生生物の生息環境を保全しつつ、多種魚類に適した魚道の整備が求められる。また、かわまちづくり計画の対象地であるため、河川景観や親水空間としての配慮が必要である。

<目標>

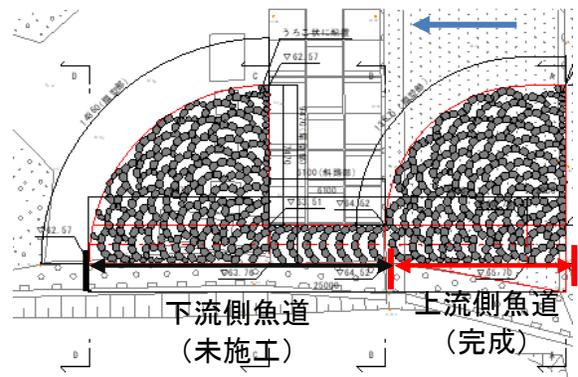
親水空間を創出しつつ、魚類の縦断方向への移動を可能とする魚道の整備を行う。景観に配慮した小わざ魚道を実施する

【かわまちづくりイメージ図】



【平面図】

根固工 水叩工 落差工



取り組み内容・対策例(1/2)

<協議会のようす>6

魚道については、富加町かわまちづくり計画の整備内容として登録されており、かわまちづくり計画の全体構想や計画の策定は「富加町かわまちづくり協議会」にて意見聴取をしている。協議会は知識経験を有する者、町内各種団体の代表者、町議会議員、町民代表等で構成され、賑わいの空間を創出し、利活用が図られるように意見交換をおこなった。

【協議会の様子】



【現地確認】



取り組み内容・対策例(2/2)

＜施工段階における取り組み＞

現地状況に合わせた施工が必要となることから、小わざ魚道を開発した学識者にお越しいただき魚道整備を指導していただいた。施工の際には、受注者のみではなく、県職員、町職員、設計を行ったコンサルタントが参加し、小わざ魚道の技術を体験を通して学んだ。使用した石材は現地発生材をもちいることで周囲の景観となじむように配慮を行った。

【植石状況】



【コンクリート打設状況】



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

・小わざ魚道は下流端が扇形形状であるため、遡上する際の入り口が多く、魚が入り口を見つけやすい。また、多様な遡上経路があることにより多種魚類に対応した魚道形式となっている。

・水路型の魚道では隔壁の破損により魚道の機能を失うものがあるが、小わざ魚道では植石が破損した場合でも完全に魚道の機能が失われる破損とならないため、維持管理の点で優れている。

今後は未施工である下流側の小わざ魚道の施工を行い、魚道工の完成を目指す。

完成後には親水空間として活用するために、魚のつかみ取り大会を開催するなど等、子どもをターゲットとした水生生物とのふれあい・遊び・学ぶイベントを企画を検討する。

【整備前】



【整備後】



備考